

Ⅲ 調査票・回答要領

1 関係機関

相談・支援機関向け調査

※調査票入力用（Wordファイル）や相談件数等を集計するための「相談実績集計用ツール」（Excelファイル）を用意しておりますので、希望される場合は回答要領の4ページをご覧ください。

1 ひきこもりに係る相談体制について

（所属種別）

Q1 貴所属についてうかがいます。該当するものを一つ選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 保健所・保健センター
- ② 生活困窮者自立相談支援機関
- ③ 福祉事務所
- ④ 区市町村生活困窮者自立支援法担当課
- ⑤ 区市町村児童青少年行政所管課
- ⑥ 地域若者サポートステーション
- ⑦ 就労支援機関（ハローワーク、東京しごとセンター）
- ⑧ 児童相談所・児童相談センター
- ⑨ 子ども家庭支援センター
- ⑩ 教育相談センター、教育センター
- ⑪ 区市町村精神保健福祉担当課
- ⑫ 精神保健福祉センター
- ⑬ 発達障害者支援機関（東京都発達障害者支援センター等）
- ⑭ 社会福祉協議会
- ⑮ 民間支援団体（NPO法人等）
- ⑯ その他

（回答）	（「⑯その他」を選んだ場合）
------	----------------

(相談体制)

Q2 ひきこもりに係る相談体制についてうかがいます。該当するものを一つ選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもり専門の相談窓口を設置している
- ② ひきこもり専門の相談窓口ではないが、相談窓口を設置しており、業務の一環としてひきこもりに係る相談にも応じている
- ③ 相談窓口は設置していないが、ひきこもりに係る相談や問合せを受け、対応することがある
- ④ ひきこもりに係る相談や問合せが寄せられることはない

(回答)

(相談方法)

Q3 相談方法についてうかがいます。貴所属で実施している相談方法として、該当するものすべてを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 電話
- ② 対面（来所）
- ③ 訪問相談（アウトリーチ）
- ④ メール
- ⑤ SNS
- ⑥ その他

(回答)	(「⑥その他」を選んだ場合)
------	----------------

(相談・支援の内容)

Q4 Q3で回答いただいたもの以外で、行っている支援の内容についてうかがいます。
実施しているものすべてを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 当事者のカウンセリング
- ② 居場所の運営
- ③ 社会体験活動の提供
- ④ 就労支援
- ⑤ 就学支援
- ⑥ 家族個別支援（面談等）
- ⑦ 家族へのグループ支援（家族教室、交流会等）
- ⑧ イベントの開催（講演会等）
- ⑨ 支援情報の提供（他団体の情報含む）
- ⑩ その他
- ⑪ 特になし

(回答)	(「⑩その他」を選んだ場合)
------	----------------

2 相談件数等について

(相談の実績の有無)

Q5 ひきこもりに係る相談実績の有無についてうかがいます。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る相談があった ⇒ Q6へ
- ② ひきこもりに係る相談はなかった ⇒ Q23へ

(回答)

(相談件数)

Q6 ひきこもりに係る相談件数（延べ件数）についてうかがいます。該当する相談方法別に件数（延べ件数）をご回答ください。

区分	件数
電話	件
対面（来所）	件
訪問相談（アウトリーチ）	件
メール	件
SNS	件
その他	件

(相談者数)

Q7 相談者数についてうかがいます。相談方法別に相談者数（実人数）をご回答ください。

区分	人数
電話	人
対面（来所）	人
訪問相談（アウトリーチ）	人
メール	人
SNS	人
その他	人

(相談者の当事者との関係)

Q8 Q7で回答のあった相談者についてうかがいます。ひきこもり状態にある当事者との関係別に相談者数（実人数）をご回答ください。

区分	人数
当事者	人
親	人
兄弟・姉妹	人
その他	人

(新規相談者数)

Q9 Q7のうち令和元年度中に初めて相談のあった相談者数(実人数)についてうかがいます。相談方法別に人数をご回答ください。

区分	人数
電話	人
対面(来所)	人
訪問相談(アウトリーチ)	人
メール	人
SNS	人
その他	人

3 当事者の属性や状態について

(当事者の年齢)

Q10 相談・支援の対象となっている当事者の年齢についてうかがいます。年齢層別に人数をご回答ください。

区分	人数
19歳以下	人
20歳代	人
30歳代	人
40歳代	人
50歳代	人
60歳以上	人
不明	人

(ひきこもりの状態が継続している期間)

Q11 相談・支援の対象となっている当事者のひきこもり状態にある期間についてうかがいます。ひきこもりの状態が継続している期間について、期間別に人数をご回答ください。

区分	人数
1年未満	人
1年以上3年未満	人
3年以上5年未満	人
5年以上10年未満	人
10年以上20年未満	人
20年以上30年未満	人
30年以上	人
ひきこもりの状態が断続的であり判断が難しい	人
不明	人

(ひきこもりの状態となった年齢)

Q12 相談・支援の対象となっている当事者のひきこもり状態になったときの年齢についてうかがいます。年齢層別に人数をご回答ください。

区分	人数
19歳以下	人
20歳代	人
30歳代	人
40歳代	人
50歳代	人
60歳以上	人
ひきこもりの状態が断続的であり判断が難しい	人
不明	人

（ひきこもりの状態にある期間が断続的なケース）

Q13 相談・支援の対象となっている当事者のひきこもりの状態にある期間が断続的であるケースについてうかがいます。一度ひきこもりの状態にあった当事者が社会参加をした後、再度ひきこもっているケースはありますか。あてはまるものを一つ選び、回答欄に数字を記入してください。「①ある」を選択した場合、把握している範囲で、該当するケースの件数もご回答ください。

- ① ある
- ② ない
- ③ 不明（聞き取っていない）

(回答)	（「①ある」を選んだ場合） 件
------	--------------------

（ひきこもりの状態となったきっかけ）

Q14 相談・支援の対象となっている当事者のひきこもりの状態になったきっかけについてうかがいます。主なきっかけとして、多いものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 受験・進学関係
- ② 学校・大学等におけるいじめ等の人間関係
- ③ 就職活動関係
- ④ 職場における人間関係（パワハラ、セクハラ等）による離職
- ⑤ 上記④以外の理由による離職（リストラ、介護離職等）
- ⑥ 病気
- ⑦ 家族関係
- ⑧ 特段きっかけはない
- ⑨ 当機関では把握していない
- ⑩ その他

(回答)	（「⑩その他」を選んだ場合）
------	----------------

(相談開始時の当事者の状態)

Q15 相談・支援の対象となっている当事者の状態についてうかがいます。当事者や家族等から最初に相談があったときの当事者の状態として、最も多いもの一つを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 自室からほとんど出ない
- ② 自室からは出るが、外出はしない
- ③ 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには外出する
- ④ 普段は家にいるが、趣味の用事などでは外出する
- ⑤ その他

(回答)	(「⑤その他」を選んだ場合)
------	----------------

(相談までに要した期間)

Q16 相談・支援の対象となっている当事者がひきこもりの状態になってから、当事者・家族等が貴所属へ相談するまでに要した期間についてうかがいます。期間別に実人数をご回答ください。

区分	人数
6か月未満	人
6か月以上1年未満	人
1年以上3年未満	人
3年以上5年未満	人
5年以上10年未満	人
10年以上20年未満	人
20年以上30年未満	人
30年以上	人
不明	人

(貴所属における支援期間)

Q17 相談・支援の対象となっている当事者について、相談・支援を継続している期間別に人数をご回答ください。相談当初、家族が相談していた場合は、家族との相談を開始した時点から通算した期間としてください。(貴所属で最初に相談を受けた日から令和2年3月31日まで)

区分	人数
1年未満	人
1年以上3年未満	人
3年以上5年未満	人
5年以上10年未満	人
10年以上	人
不明	人

(当事者への支援開始までに要した最長期間)

Q18 相談開始時には当事者が相談・支援を望まないなど、家族への相談・支援のみを一定期間行ったのちに当事者が支援につながるケースについてうかがいます。家族への支援を開始してから当事者の支援(支援者が訪問・来所相談等で当事者と直接会って面談ができる等)に至るまでに最も期間を要したケースについて、その期間をご記入ください。

(回答)
おおむね 年 か月

(当事者の心身の状況)

Q19 相談・支援の対象となっている当事者についてうかがいます。当事者の心身の状況として、多いものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 精神疾患を有している、またはその疑いがある
- ② 知的障害を有している、またはその疑いがある
- ③ 発達障害を有している、またはその疑いがある
- ④ 精神疾患及び障害(知的・発達等)を両方有している
- ⑤ 精神疾患や障害は有していない
- ⑥ 当事者の状態が不明なため、心身の状況を見立てることは困難
- ⑦ 福祉・保健医療の専門職がないため、心身の状況を見立てることは困難
- ⑧ その他

(回答)

（「⑧その他」を選んだ場合）

4 家族の状況について

（当事者の同居者の有無等）

Q20 相談・支援の対象となっている当事者についてうかがいます。同居者の有無等別に人数をご回答ください。

区分	人数
同居者あり（家族）	人
同居者あり（家族以外）	人
同居者なし（一人暮らし）	人
不明	人
その他	人

（主たる生計維持者）

Q21 相談・支援の対象となっている当事者の主たる生計維持者についてうかがいます。当事者との関係別に人数をご回答ください。

区分	人数
当事者	人
親	人
配偶者	人
兄弟・姉妹	人
その他の家族、親戚	人
生活保護などを受けている	人
不明	人
その他	人

(生計維持者である親の年齢)

Q22 相談・支援の対象となっている当事者の主たる生計維持者（当事者に対して主に経済的支援を行っている者。当事者が仕送りを受けている場合は、仕送りをしている者。）が親である場合についてうかがいます。親の年齢について、年齢層別の人数をご回答ください。

区分	人数
39歳以下	人
40歳代	人
50歳代	人
60歳代	人
70歳代	人
80歳以上	人
不明	人

5 支援内容や課題について

(相談者を他機関につなぐ場合の対応)

Q23 相談者を貴所属から他の機関等につなぐケース（貴所属で相談を受けたが他の支援機関等の方がより適切な支援を行える場合や、他の支援機関での支援を並行して利用することが望ましい場合等）についてうかがいます。どのように対応しているか、最も多いものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 相談者に対し支援機関等に関する情報を提供する
- ② 相談者・支援機関双方に対し情報を提供する
- ③ 相談者が支援機関等に行く際に同行し、支援の経過等を支援者間で共有する
- ④ その他
- ⑤ 特になし

(回答)	(「④その他」を選んだ場合)
------	----------------

(実態把握のための取組)

Q24 ひきこもり状態にある人の実態把握のために、どのような取組を行っていますか。行っているものをすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 当事者へのヒアリング調査
- ② 家族へのヒアリング調査
- ③ 個別の世帯訪問
- ④ アンケート調査
- ⑤ その他
- ⑥ 実態把握のための取組は行っていない

(回答)	(「⑤その他」を選んだ場合)
------	----------------

(当事者の生活状況に見られた変化)

Q25 相談・支援の対象となっている当事者についてうかがいます。相談・支援を継続し行う中で当事者の行動範囲に見られた変化について、多いものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 自室から出られるようになった
- ② 自宅から出られるようになった（コンビニでの買い物など）
- ③ 趣味などの外出が出来るようになった
- ④ 居場所や当事者同士の活動に参加できるようになった
- ⑤ 就職・就学に向けて活動をはじめた
- ⑥ 就職・就学した
- ⑦ ①～⑥のような（目立った）変化は見られなかった
- ⑧ その他

(回答)	(「⑧その他」を選んだ場合)
------	----------------

(若年層への相談・支援において課題と感じていること)

Q26 若年層（おおむね39歳まで）の当事者に係る相談・支援において、貴所属が課題と感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応が分からない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との関係構築が十分でないため、適切に連携して対応できない
- ⑥ 地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまでに長期間経過しており、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋がられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ きめ細かな相談を行うための人員体制が整っていない
- ⑫ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑬ 特になし

(回答)

(若年層特有の課題)

Q27 若年層（おおむね39歳まで）の当事者への支援において貴所属が課題と感じていることがあれば、自由に記入してください。

例：相談支援の技能・知識に関すること

ひきこもりの特性に関すること

機関連携・社会資源に関すること 等

(回答)

(中高年層への相談・支援において課題と感じていること)

Q28 中高年層（おおむね40歳以上）の当事者への相談・支援において、貴所属が課題として感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応が分からない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との関係構築が十分でないため、適切に連携して対応できない
- ⑥ 地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまでに長期間経過しており、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋がられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ きめ細かな相談を行うための人員体制が整っていない
- ⑫ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑬ 特になし

(回答)

(中高年層特有の課題)

Q29 中高年層（おおむね40歳以上）の当事者への支援において貴所属が課題と感じることがあれば、自由に記入してください。

例：相談支援の技能・知識に関すること
ひきこもりの特性に関すること
機関連携・社会資源に関すること 等

(回答)

(関係機関等との連携の現状)

Q30 相談・支援における連携についてうかがいます。貴所属がひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関等をすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 保健所・保健センター
- ② 生活困窮者自立相談支援機関
- ③ 福祉事務所
- ④ 区市町村児童青少年行政所管課
- ⑤ 地域若者サポートステーション
- ⑥ ハローワーク
- ⑦ 東京しごとセンター
- ⑧ 児童相談所・児童相談センター
- ⑨ 子供家庭支援センター
- ⑩ 学校（スクールカウンセラー等を含む）
- ⑪ 教育相談センター・教育センター
- ⑫ 精神保健福祉センター
- ⑬ 障害者就業・生活支援センター
- ⑭ 東京都発達障害者支援センター（TOSCA）
- ⑮ 障害福祉サービス事業所
- ⑯ 社会福祉協議会
- ⑰ 地域包括支援センター
- ⑱ 民生委員・児童委員
- ⑲ 医療機関
- ⑳ ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）
- ㉑ 民間支援団体（NPO法人・フリースクール等）
- ㉒ 当事者団体・家族会
- ㉓ 他機関との連携はない
- ㉔ その他

(回答)	(「㉔その他」を選んだ場合)
------	----------------

(今後連携する必要がある連携先)

Q31 相談・支援における連携についてうかがいます。貴所属がひきこもりに係る相談・支援において、今後連携が必要である、今後連携を強化する必要があると感じている関係機関等をすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 保健所・保健センター
- ② 生活困窮者自立相談支援機関
- ③ 福祉事務所
- ④ 区市町村児童青少年行政所管課
- ⑤ 地域若者サポートステーション
- ⑥ ハローワーク
- ⑦ 東京しごとセンター
- ⑧ 児童相談所・児童相談センター
- ⑨ 子供家庭支援センター
- ⑩ 学校（スクールカウンセラー等を含む）
- ⑪ 教育相談センター・教育センター
- ⑫ 精神保健福祉センター
- ⑬ 障害者就業・生活支援センター
- ⑭ 東京都発達障害者支援センター（TOSCA）
- ⑮ 障害福祉サービス事業所
- ⑯ 社会福祉協議会
- ⑰ 地域包括支援センター
- ⑱ 民生委員・児童委員
- ⑲ 医療機関
- ⑳ ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）
- ㉑ 民間支援団体（NPO法人・フリースクール等）
- ㉒ 当事者団体・家族会
- ㉓ 他機関との連携はない
- ㉔ その他

(回答)

(「㉔その他」を選んだ場合)

(地域における連携ネットワークの状況)

Q32 地域におけるひきこもりに係る連携ネットワークの現状について、あてはまるもの一つを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る相談・支援に特化した連携ネットワークを構築している
- ② ひきこもりに係る相談・支援に特化した連携ネットワークは構築していないが、既存の他の会議体などにおいてひきこもりに係る連携も行っている
- ③ 連携ネットワークは構築していないが、個別ケースにおいて日常的に関係機関等と連携を行っている
- ④ 連携ネットワークは構築しておらず、個別ケースで連携することもほとんどない
- ⑤ その他

(回答)	(「⑤その他」を選んだ場合)
------	----------------

(今後必要な支援)

Q33 ひきこもりに係る支援について、行政や支援機関が今後取り組む必要があると思われることを優先順位の高い順に三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 身近な地域における相談体制の充実
- ② 地域における連携ネットワークづくり
- ③ 効果的な普及啓発の充実
- ④ 支援ガイドマップ作成・配布（支援機関が掲載されたマップ等）
- ⑤ 相談・支援機関向け研修会・事例検討会
- ⑥ 居場所の運営
- ⑦ 家族向けのひきこもりに関するセミナー、家族教室等
- ⑧ ひきこもりの家族会と連携した取組の充実（ピアサポーター等）
- ⑨ 当事者・家族向け講演会・相談会・勉強会
- ⑩ 中間的就労等を含めた就労支援
- ⑪ 当事者団体・家族会との連携、当事者の声を聴く機会づくり
- ⑫ その他

(回答)	(「⑫その他」を選んだ場合)
(順位1)	
(順位2)	
(順位3)	

(情報発信)

Q34 ひきこもりに係る支援について、当事者・家族等支援を必要としている人に対し、どのような方法で情報発信を行っていますか。実施しているものをすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ホームページへの掲載
- ② 自治体広報紙への掲載
- ③ ガイドブックの作成・配布
- ④ リーフレット・チラシの作成・配布
- ⑤ SNS (Twitter等) での発信
- ⑥ セミナーの開催
- ⑦ その他

(回答)	(「⑦その他」を選んだ場合)
------	----------------

(民間事業者の利用をめぐるトラブルにかかる相談)

Q35 ひきこもりに係る支援を目的として掲げる民間事業者の利用にあたって、トラブル（高額な利用料を一括請求された、実際は支援を行っていないなど）に関する相談の有無について伺います。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 相談を受けたことがある
- ② 相談を受けたことはない

(回答)	(「①相談を受けたことがある」を選んだ場合、その概要)
------	-----------------------------

(自由意見)

Q36 ひきこもりに係る相談・支援に関して、日頃感じていることやご意見について、自由にご記入ください。

(回答)

～ご協力いただき、ありがとうございました。～

回答内容や件数等についてお問い合わせする場合がございますので、ご記入ください。

機関名： _____

部署名： _____

お名前： _____

ご連絡先（電話）： _____

ご連絡先（メール）： _____

相談・支援機関向け

ひきこもりに関する支援状況等調査【回答要領】

1 共通事項

【本調査におけるひきこもりの定義】

- ・ 本調査におけるひきこもりの定義は、以下のとおりです。ただし、重度の障害、疾病等で外出できない者を除きます。

「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出※をしてもよい）」

※ 他者と交わらない形での外出

「趣味の用事の時だけ外出する」「近所のコンビニなどには出かける」を指します。

- ・ 本調査においては、ひきこもりの状態にある本人を「当事者」と表記します。

【調査時点】

- ・ 相談実績についての設問（Q5からQ22まで）については、令和元年度中（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の実績を回答してください。
- ・ その他の設問については、令和2年9月現在の状況を記入してください。

【記入方法】

- ・ 調査票の回答欄に回答を記入してください。
- ・ 選択式の設問については、あてはまる選択肢の丸数字を回答欄に記入してください。「その他」の選択肢を選んだ場合は、回答欄に具体的な内容を記載してください。

【その他】

- ・ 民間の法人が行政機関の事業を受託している場合、調査票が複数届くことがあります。調査票が送付された封筒に記載されている宛名を確認し、調査票ごとにそれぞれの立場で回答してください。法人の独自事業と受託事業について、一枚の調査票にまとめず、回答してください。

（例）社会福祉協議会が自治体の生活困窮者自立相談窓口の事業を受託している
NPO法人が地域若者サポートステーション事業を受託している 等

- ・ 生活困窮者自立相談支援機関の担当部署が福祉事務所に置かれている場合、調査票が複数届くことがあります。調査票が送付された封筒に記載されている宛名を確認し、調査票ごとに、生活困窮者自立相談支援機関に係る取組・実績と、その他の事業に係る取組・実績を分けて回答してください。
 - ・ 相談者の氏名等、個人情報記載しないでください。

2 各設問回答上の注意

【Q5からQ22まで「ひきこもりに係る相談」の捉え方】

- ・ 当事者からの相談だけでなく、家族等からの相談も回答の対象としてください。

- ・ 複合的な課題に関する相談であっても、ひきこもりに関する相談内容が含まれている場合は、ひきこもりに係る相談とみなし、回答の対象としてください。
- ・ ひきこもりに関すること以外での相談等から、家族の中にひきこもり状態にある者がいることを把握しているが、相談者が当事者に関する相談や支援を望まない場合であっても、貴所属としてひきこもりが課題となっていると判断し相談・支援を行っているケースについては、回答の対象としてください。

【Q6 相談件数】

- ・ 同一の相談者が複数の相談方法により相談を行っている場合、それぞれの相談方法の件数に計上してください。

【Q7 相談者数】

- ・ 同一の相談者が複数の相談方法により相談を行っている場合、それぞれの相談方法の相談者数に計上してください。
- ・ 一人の当事者について、複数の相談者がいる場合、それぞれの相談方法の相談者数に計上してください。

(例) 一人の当事者について、親ときょうだいから相談を受けている

【Q9 新規相談者数】

- ・ 平成30年度以前から継続して支援を行っている相談者について、令和元年度中に新たにひきこもりに係る課題が把握された場合は、新規の相談とみなし、件数に含めてください。
- ・ 匿名での相談等で、過去の相談歴の有無が確認できない場合は、新規の相談とみなし、件数に含めてください。

【Q10 当事者の年齢】

- ・ 令和元年度末（令和2年3月31日）現在で把握している年齢について回答してください。

【Q11 ひきこもりの状態が継続している期間】

- ・ 令和元年度末（令和2年3月31日）時点で相談・支援を継続しているケースについては、令和元年度末時点での期間を回答してください。令和元年度の途中で相談・支援が終了したケースについては、相談・支援の終了時点での期間を回答してください。
- ・ 一度ひきこもりの状態であった人が社会参加を行った後、再度ひきこもり状態になっているケースについては、社会参加の期間が短い場合はひきこもりの期間を通算する、一定の期間安定的に社会参加を行っていた場合は直近のひきこもり期間のみを回答対象とする等、実態に即して個別に判断してください。例えば、学生時代に不登校の経験があり、大学卒業後10年間就労したものの、再度ひきこもり状態になっているような場合は、直近のひきこもり期間のみを回答してください。こうした判断が難しい場合には、「ひきこもりの状態が断続的であり判断が難しい」ケースとして回答してください。

【Q12 ひきこもりの状態となった年齢】

- 一度ひきこもりの状態であった人が社会参加を行った後、再度ひきこもり状態になっているケースについては、社会参加の期間が短い場合はひきこもりの期間を通算し、最初にひきこもり状態になったときの年齢を回答対象とする、一定の期間安定的に社会参加を行っていた場合は直近のひきこもり状態になったときの年齢を回答対象とする等、実態に即して個別に判断してください。例えば、学生時代に不登校の経験があり、大学卒業後10年間就労したものの、再度ひきこもり状態になっているような場合は、直近のひきこもり状態になったときの年齢を回答してください。こうした判断が難しい場合には、「ひきこもりの状態が断続的であり判断が難しい」ケースとして回答してください。

【Q16 相談までに要した期間】

- ひきこもり以外に関する相談等に対応する中でひきこもりの課題が把握されたケースについては、ひきこもりの課題を把握した時点をひきこもりに係る相談の開始とみなし、回答してください。

【Q17 貴所属における支援期間】

- 令和元年度末（令和2年3月31日）時点で相談・支援を継続しているケースについては、令和元年度末時点での期間を回答してください。令和元年度の途中で相談・支援が終了したケースについては、相談・支援の終了時点での期間を回答してください。
- ひきこもり以外に関する相談等に対応する中でひきこもりの課題が把握されたケースについては、ひきこもりの課題を把握した時点をひきこもりに係る相談の開始とみなし、回答してください。

【Q19 当事者の心身の状況】

- 「精神疾患を有している」とは、精神障害者保健福祉手帳を取得している場合を含みます。
- 精神疾患を有している（または疑いがある）ケースについては、精神疾患がひきこもり状態となるきっかけや要因となっている場合と、ひきこもり状態が継続した結果二次的に精神疾患の症状が見られる場合が考えられますが、いずれの場合も回答の対象としてください。

【Q21 主たる生計維持者、Q22 生計維持者である親の年齢】

- 本調査における「主たる生計維持者」とは、当事者に対して主に経済的支援を行っている者を指します。
- 当事者が仕送りを受けている場合は、仕送りをしている者を「主たる生計維持者」とみなし、回答してください。
- 当事者に対し経済的支援を行っている者が複数いる場合は、最も多く支援を行っている者を「主たる生計維持者」とみなし、回答してください。

2 地域包括支援センター

連携・協力機関向け調査（地域包括支援センター向け）

（担当地区におけるひきこもりの状態にある方の把握状況）

Q1 担当する地区内にお住まいの「ひきこもりの状態にある方」がいることを把握していますか（近隣住民からの情報提供等を含む）。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 把握している・把握したことがある ⇒ Q2へ
② 把握していない・把握したことがない ⇒ Q6へ（Q2～Q5は回答不要）

（回答）

（ひきこもりの状態にある方を把握する機会）

Q2 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることをどのような方法で知りますか。該当するものをすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 当事者の家族からの相談
② 各世帯の見守りや安否確認時
③ 近隣住民からの情報提供（相談）
④ 関係機関からの情報提供
⑤ 介護サービス提供事業者からの情報提供
⑥ 当事者からの相談
⑦ その他

（回答）

（「⑦その他」を選んだ場合）

(ひきこもりの状態にある方を把握する件数)

Q3 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることを新たに把握することは、どの程度ありますか。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ほとんどない
- ② 年1～2件
- ③ 年3～4件
- ④ 年5～10件
- ⑤ 月1件程度
- ⑥ その他

(回答)	(「⑥その他」を選んだ場合)
------	----------------

(「ひきこもり状態にある中高年層の方」を把握する件数)

Q4 Q3の回答のうち、ひきこもりの状態にある中高年層(おおむね40歳以上)の方がいることを新たに把握することはどの程度ありますか。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ほとんどない
- ② 年1～2件
- ③ 年3～4件
- ④ 年5～10件
- ⑤ 月1件程度
- ⑥ その他

(回答)	(「⑥その他」を選んだ場合)
------	----------------

(ひきこもりの状態にある方を知ったときの対応)

Q5 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることを知ったとき、どのような対応をすることが多いですか。最も多いものを一つ選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 関係づくりのための訪問を行う
- ② 定期的な見守り・声かけを行う
- ③ 家族からの相談を聞く
- ④ 当事者・家族に対し相談窓口や支援機関について情報提供を行う
- ⑤ 相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う
- ⑥ 当事者・家族が相談窓口・支援機関に行く際に同行する
- ⑦ その他

(回答)	(「⑦その他」を選んだ場合)
------	----------------

(関係機関との連携の現状)

Q6 ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関をすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 保健所・保健センター
- ② 生活困窮者自立相談支援機関
- ③ 福祉事務所
- ④ 区市町村児童青少年行政所管課
- ⑤ 地域若者サポートステーション
- ⑥ ハローワーク
- ⑦ 東京しごとセンター
- ⑧ 児童相談所・児童相談センター
- ⑨ 子ども家庭支援センター
- ⑩ 学校（スクールカウンセラー等を含む）
- ⑪ 教育相談センター・教育センター
- ⑫ 精神保健福祉センター
- ⑬ 障害者就業・生活支援センター
- ⑭ 東京都発達障害者支援センター（TOSCA）
- ⑮ 障害福祉サービス事業所
- ⑯ 社会福祉協議会
- ⑰ 民生委員・児童委員
- ⑱ 医療機関
- ⑲ ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）
- ⑳ 民間支援団体（NPO法人・フリースクール等）
- ㉑ 当事者団体・家族会
- ㉒ 関係機関との連携はない
- ㉓ その他

(回答)	(「㉓その他」を選んだ場合)
------	----------------

(中高年層への支援において課題と感じていること)

Q7 高齢の親が収入のないひきこもり状態にある中高年層の子供（おおむね40歳以上）の生活を支え、社会的に孤立している、いわゆる「8050」ケースの家庭への支援についてうかがいます。

そうした家庭への支援にあたり課題と感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない
- ⑥ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまで長期間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋げられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑫ 中高年層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない
- ⑬ 特になし

(回答)

(若年層への支援において課題と感じていること)

Q8 高齢者が収入のないひきこもり状態にある若年層（おおむね39歳以下）の子どもしくは孫の生活を支え、社会的に孤立している家庭への支援についてうかがいます。
そうした家庭への支援にあたり課題と感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない
- ⑥ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまで長期間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋がられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑫ 若年層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない
- ⑬ 特になし

(回答)

(対応した事例)

Q9 ひきこもり状態にある方やそのご家族にかかわったケースで、対応が難しいと感じた事例や、地域で連携して対応することができた事例について、その概要についてご回答ください。

例① 80代のご夫婦から、50代の子どもがひきこもり状態であると相談を受けたが、誰も本人に会うことができないまま、数年が経過している。

例② ひきこもり状態のお子さんがある家庭について、区の窓口連絡したところ、お子さんへのケアは保健所の保健師が、家庭の家計の相談は生活困窮者自立支援窓口の職員が対応してくれることになった。

例③ 本人への接し方に悩みを抱える家族を、保健所の「家族教室」につないだ。その後、本人と家族の会話が増え、家族から本人へ支援に関する情報を伝えられるようになった。

(回答)

(自由意見)

Q10 ひきこもりに係る相談・支援に関して、日頃感じていることやご意見について自由にご記入ください。

(回答)

～ご協力いただき、ありがとうございました。～

地域包括支援センター向け

ひきこもりに関する支援状況等調査【回答要領】

【本調査におけるひきこもりの定義】

- ・ 本調査におけるひきこもりの定義は、以下のとおりです。ただし、重度の障害、疾病等で外出できない者を除きます。
「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出※をしてもよい）」
※ 他者と交わらない形での外出
「趣味の用事の時だけ外出する」「近所のコンビニなどには出かける」を指します。
- ・ 本調査においては、ひきこもりの状態にある本人を「当事者」と表記します。

【記入方法】

- ・ 調査票の回答欄に回答を記入してください。
- ・ 選択式の設問については、あてはまる選択肢の丸数字を回答欄に記入してください。「その他」の選択肢を選んだ場合は、回答欄に具体的な内容を記載してください。
- ・ 回答者が現在把握している状況を回答してください。本調査に回答するための事実確認（家庭への聞き取り等）までは不要です。
- ・ 相談者の氏名等、個人が特定できる情報は記載しないでください。

3 民生委員・児童委員

連携・協力機関向け調査（民生委員・児童委員向け）

（担当地区におけるひきこもりの状態にある方の把握状況）

Q1 担当する地区内にお住まいの「ひきこもりの状態にある方」を把握していますか（近隣住民からの情報提供等を含む）。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 把握している・把握したことがある ⇒ Q2へ
 ② 把握していない・把握したことがない ⇒ Q6へ（Q2～Q5は回答不要）

(回答)

（ひきこもりの状態にある方を把握する機会）

Q2 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることをどのような方法で知りますか。該当するものをすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 家族からの相談
 ② 各世帯の見守りや安否確認時
 ③ 近隣住民からの情報提供（相談）
 ④ 関係機関からの情報提供
 ⑤ 本人からの相談
 ⑥ その他

(回答)

(「⑥その他」を選んだ場合)

(ひきこもりの状態にある方を把握する件数)

Q3 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることを新たに把握することは、どの程度ありますか。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ほとんどない
- ② 年1～2件
- ③ 年3～4件
- ④ 年5～10件
- ⑤ 月1件程度
- ⑥ その他

(回答)	(「⑥その他」を選んだ場合)
------	----------------

(「ひきこもり状態にある中高年層の方」を把握する件数)

Q4 Q3の回答のうち、ひきこもりの状態にある中高年層(おおむね40歳以上)の方がいることを新たに把握することはどの程度ありますか。該当するものを選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ほとんどない
- ② 年1～2件
- ③ 年3～4件
- ④ 年5～10件
- ⑤ 月1件程度
- ⑥ その他

(回答)	(「⑥その他」を選んだ場合)
------	----------------

(ひきこもりの状態にある方を知ったときの対応)

Q5 担当する地区にひきこもりの状態にある方がいることを知ったとき、どのような対応をすることが多いですか。最も多いものを一つ選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 関係づくりのための訪問を行う
- ② 定期的な見守り・声かけを行う
- ③ 家族からの相談を聞く
- ④ 当事者・家族に対し相談窓口や支援機関について情報提供を行う
- ⑤ 相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う
- ⑥ 当事者・家族が相談窓口・支援機関に行く際に同行する
- ⑦ その他

(回答)	(「⑦その他」を選んだ場合)
------	----------------

(関係機関との連携の現状)

Q6 ひきこもりに係る相談・支援において、連携している関係機関をすべて選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① 保健所・保健センター
- ② 生活困窮者自立相談支援機関
- ③ 福祉事務所
- ④ 区市町村児童青少年行政所管課
- ⑤ 地域若者サポートステーション
- ⑥ ハローワーク
- ⑦ 東京しごとセンター
- ⑧ 児童相談所・児童相談センター
- ⑨ 子ども家庭支援センター
- ⑩ 学校（スクールカウンセラー等を含む）
- ⑪ 教育相談センター・教育センター
- ⑫ 精神保健福祉センター
- ⑬ 障害者就業・生活支援センター
- ⑭ 東京都発達障害者支援センター（TOSCA）
- ⑮ 障害福祉サービス事業所
- ⑯ 社会福祉協議会
- ⑰ 地域包括支援センター
- ⑱ 医療機関
- ⑲ ひきこもり地域支援センター（東京都ひきこもりサポートネット）
- ⑳ 民間支援団体（NPO法人・フリースクール等）
- ㉑ 当事者団体・家族会
- ㉒ 関係機関との連携はない
- ㉓ その他

(回答)

（「㉓その他」を選んだ場合）

(若年層への支援において課題と感じていること)

Q7 ひきこもりに関する対応において、ひきこもりの状態にある方が若年層（おおむね39歳まで）である場合に課題と感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない
- ⑥ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまで長期間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋がられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑫ 若年層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない
- ⑬ 特になし

(回答)

(中高年層への支援において課題と感じていること)

Q8 ひきこもりに関する対応において、ひきこもりの状態にある方が中高年層（おおむね40歳以上）である場合に課題として感じていることとして、主なものを三つまで選び、回答欄に数字を記入してください。

- ① ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない
- ② 当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない
- ③ 当事者・家族が抱える悩みが多岐に渡っているため、対応に時間がかかる
- ④ 家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない
- ⑤ 関係機関との連携が十分ではないため、適切に紹介できない
- ⑥ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）がない
- ⑦ 身近な地域にひきこもりに係る支援の社会資源（居場所や家族会等）を知らない
- ⑧ 相談・支援に至るまで長期間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる
- ⑨ 当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談に繋がられない
- ⑩ 近隣住民等から情報提供や相談があるが、当事者・家族にアプローチができない
- ⑪ 家族から相談があっても、相談が継続せず途切れてしまう
- ⑫ 中高年層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない
- ⑬ 特になし

(回答)

(対応した事例)

Q9 ひきこもり状態にある方やそのご家族にかかわったケースで、対応が難しいと感じた事例や、地域で連携して対応することができた事例について、その概要についてご回答ください。

例① 80代のご夫婦から、50代の子どもがひきこもり状態であると相談を受けたが、誰も本人に会うことができないまま、数年が経過している。

例② ひきこもり状態のお子さんがある家庭について、区の窓口で連絡したところ、お子さんへのケアは保健所の保健師が、家庭の家計の相談は生活困窮者自立支援窓口の職員が対応してくれることになった。

例③ 本人への接し方に悩みを抱える家族を、保健所の「家族教室」につないだ。その後、本人と家族の会話が増え、家族から本人へ支援に関する情報を伝えられるようになった。

(回答)

(自由意見)

Q10 ひきこもりに係る相談・支援に関して、日頃感じていることやご意見について自由にご記入ください。

(回答)

～ご協力いただき、ありがとうございました。～

民生委員・児童委員向け

ひきこもりに関する支援状況等調査【回答要領】

【本調査におけるひきこもりの定義】

- ・ 本調査におけるひきこもりの定義は、以下のとおりです。ただし、重度の障害、疾病等で外出できない者を除きます。
「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出※をしてもよい）」
※ 他者と交わらない形での外出
「趣味の用事の時だけ外出する」「近所のコンビニなどには出かける」を指します。
- ・ 本調査においては、ひきこもりの状態にある本人を「当事者」と表記します。

【記入方法】

- ・ 調査票の回答欄に回答を記入してください。
- ・ 選択式の設問については、あてはまる選択肢の丸数字を回答欄に記入してください。「その他」の選択肢を選んだ場合は、回答欄に具体的な内容を記載してください。
- ・ 回答者が現在把握している状況を回答してください。本調査に回答するための事実確認（家庭への聞き取り等）までは不要です。
- ・ 相談者の氏名等、個人が特定できる情報は記載しないでください。